

大阪府立障がい者自立センター退所者アンケート調査結果

I. 調査概要

1. 調査対象：平成 28 年 5 月から平成 30 年 3 月末までに退所された方 132 人
2. 調査期間：平成 28 年 5 月 1 日～平成 30 年 6 月 30 日
3. 回答率：62% (82 人/132 人)

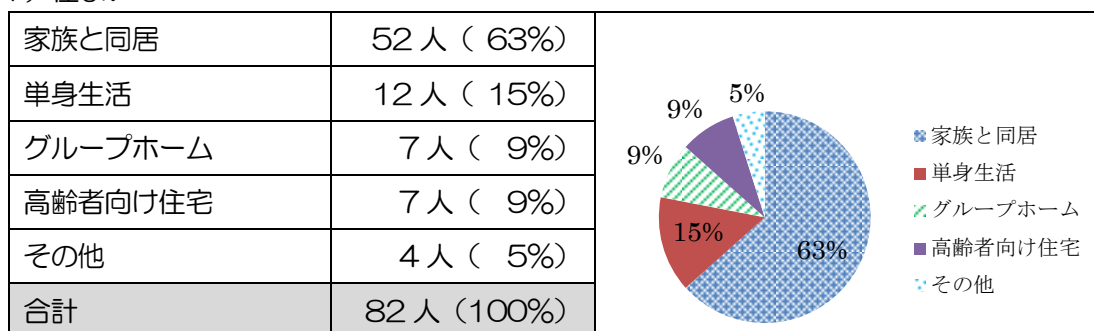
※構成比は、小数点以下第 1 位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100%とはなりません。

※自由記述については、主要な意見を掲載しています。

II. 調査結果

1. 退所後の暮らしについて

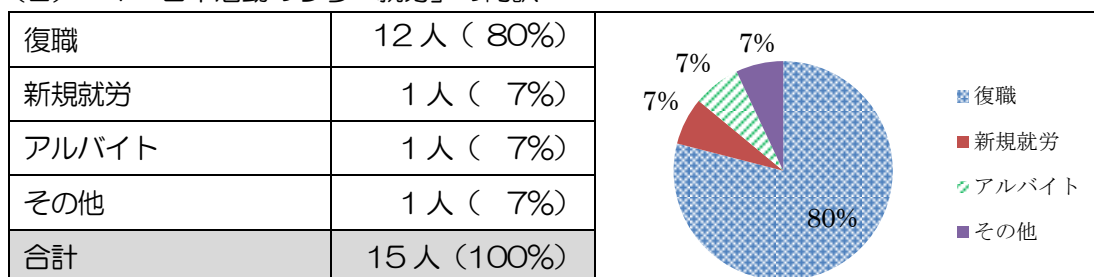
(1) 住まい



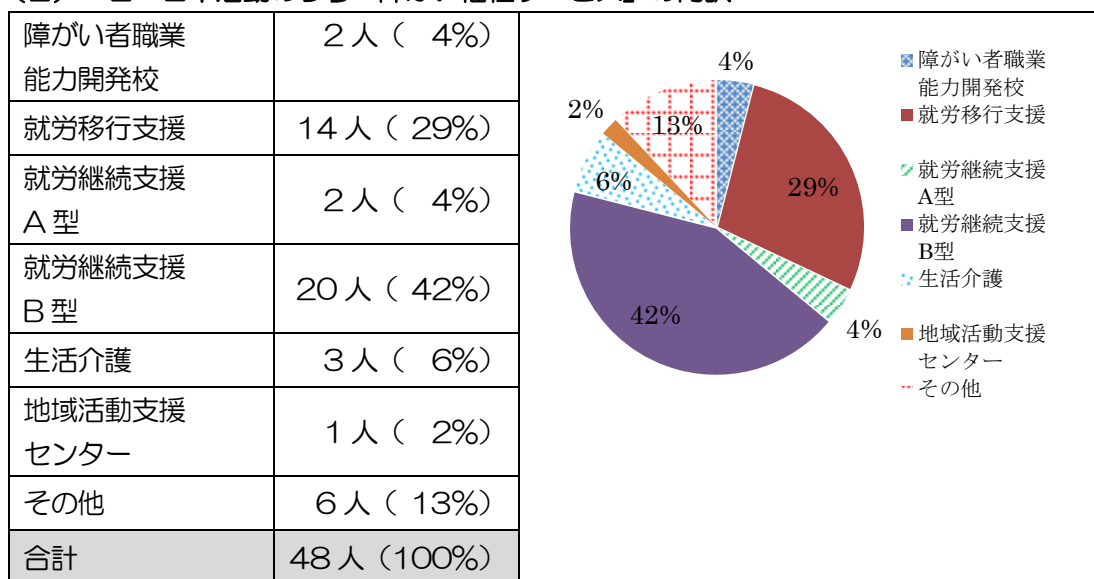
(2) 日中活動（複数回答可）

| | |
|-----------|-------------|
| 就労 | 15 人 (18%) |
| 学校（復学） | 3 人 (4%) |
| 障がい福祉サービス | 48 人 (59%) |
| 介護保険サービス | 27 人 (33%) |
| 家事・趣味等 | 26 人 (32%) |
| 合計 | 82 人 (100%) |

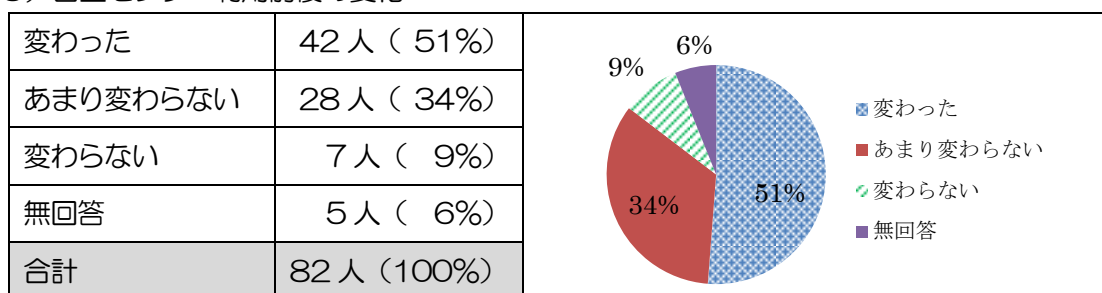
◆ (2) -1 日中活動のうち「就労」の内訳



◆ (2) -2 日中活動のうち「障がい福祉サービス」の内訳



(3) 自立センター利用前後の変化

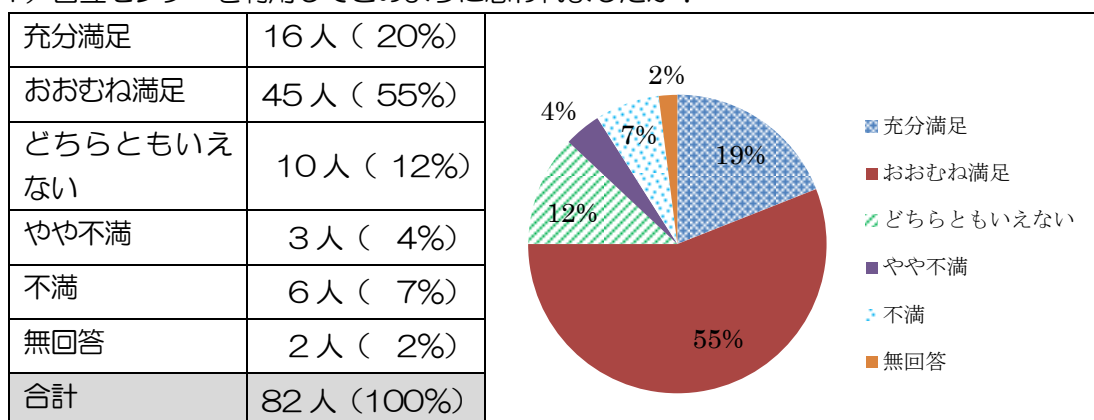


<「変わった」と回答した人の意見>

- 規則正しい生活ができるようになった。
- ある程度の家事や外出ができるようになった。
- 歩行が安定し、杖で近辺外出できるようになった。
- 公共交通機関を使って外出する機会が増えた。
- メモリーノートにこまめに書くようになった。
- 自分の意志をしっかりまわりに伝えられるようになった。
- 入所当時は、かなり時間をかけて1つのことをするのがやっとだったが、焦らずにやれば、ほぼミスなく2つくらいのことができるようになった。

2. 自立センターについて

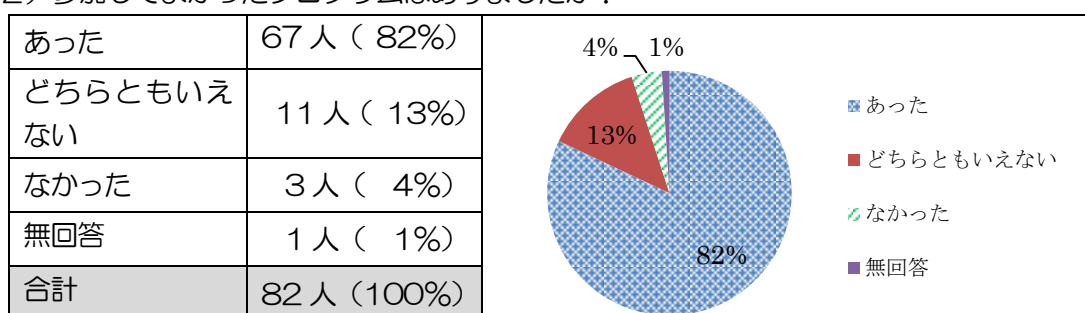
(1) 自立センターを利用してどのように思われましたか？



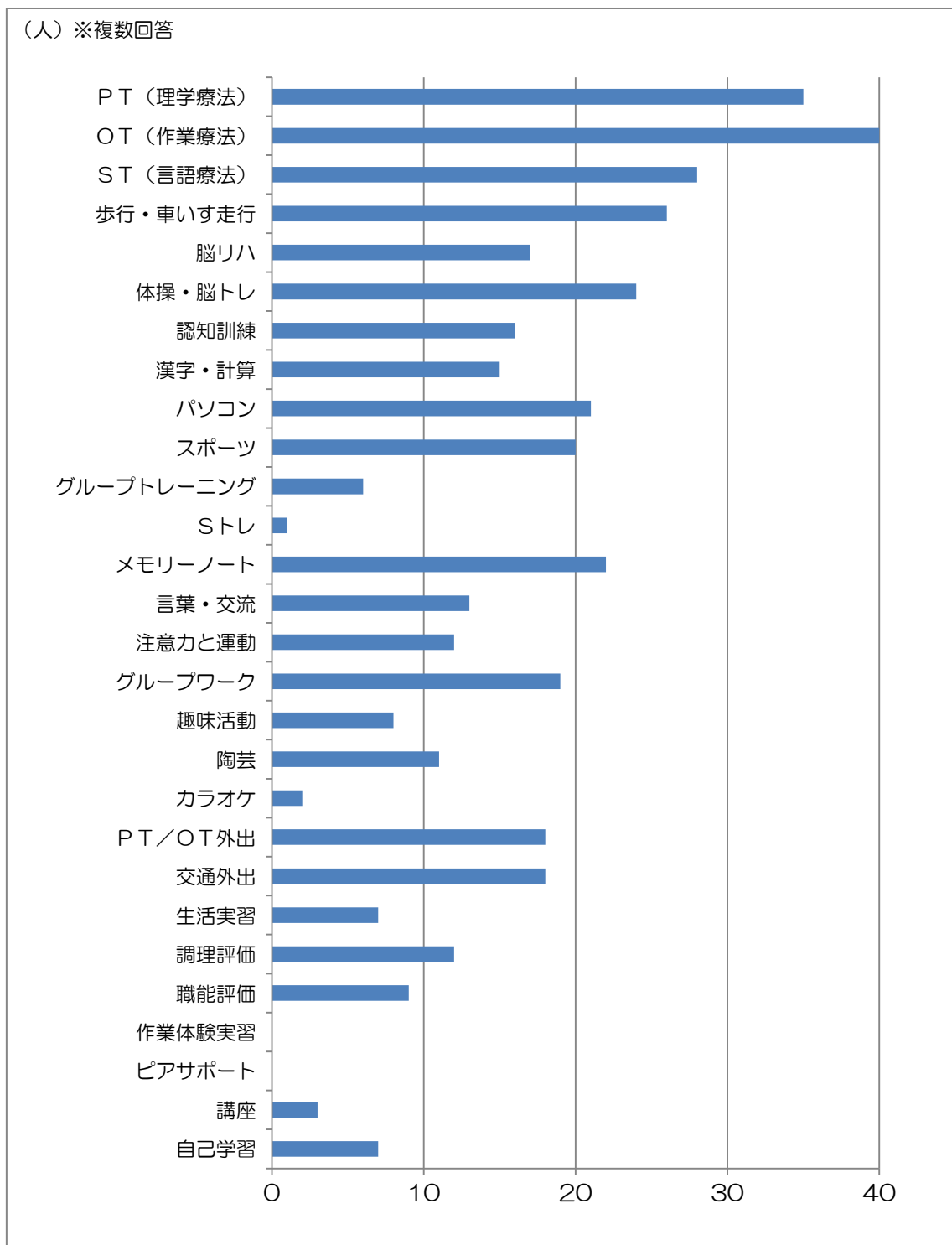
<利用者の感想（不満な点）>

- 施設内は清潔にしてほしい。
- 空調をもう少し効かせてほしい。
- 自主トレができるよう、講堂を開放してほしい。
- リハビリのプログラムをもっと増やしてほしい。
- プログラムが自分に合わず、ただ座っているだけと感じることがたまにあった。
- 自己活動の時間が多く、もっと個別の活動を増やしてほしい。

(2) 参加してよかったプログラムはありましたか？



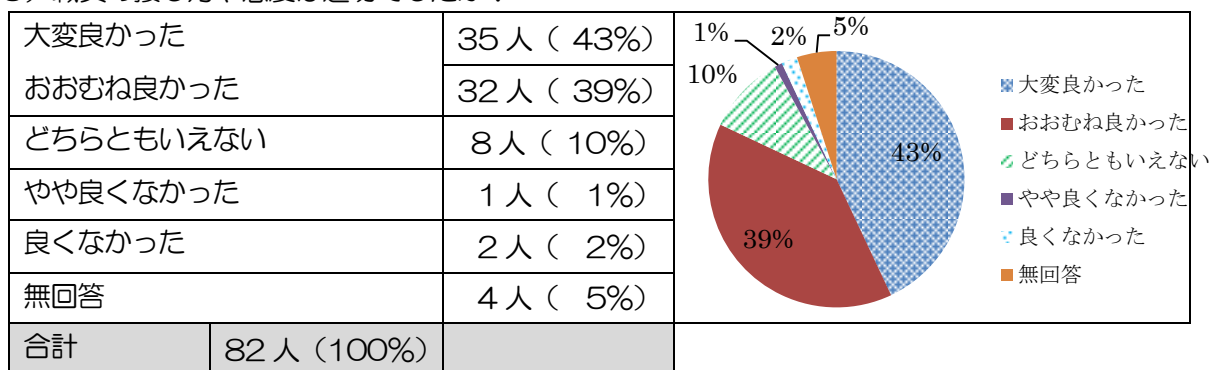
◆参加してよかったプログラム（複数回答）



※各プログラムの内容については、p.13~15をご覧ください。

どのプログラムを受講するかは、利用者によって異なります。

(3) 職員の接し方や態度は適切でしたか？



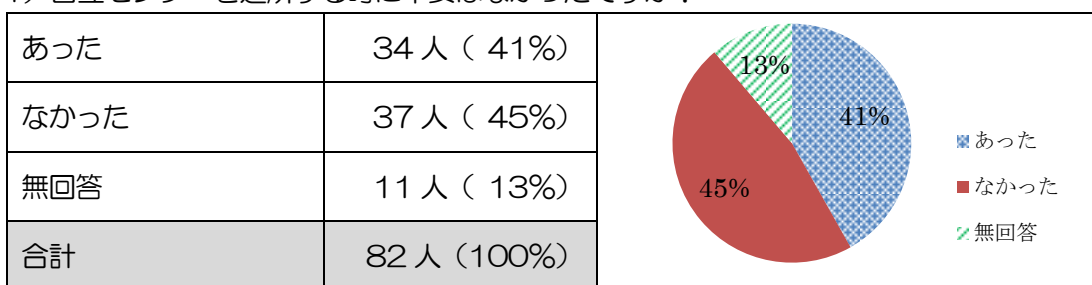
<良かった点>

- いつも元気よく受け答えしてくれた。
- 入所直後に顔と名前を覚えてくれた。
- 言葉遣いが丁寧だった。
- 職員のみんが優しく、心が落ち着く。
- 話をしっかり最後まで聞いてもらえた。
- 個々に応じた対応ができていた。
- わからないことを質問すれば、的確に返答してくれ、助かった。
- 私の苦手なことや不得意なことを見つけ、スムーズに行えるよう、サポートしてくれた。
- フレンドリーでありながら、きちんと敬語を使っており、とても感じがよかった。
- 障がいを持った自分たちに対し、同じ目線で、年齢など関係なく接してくれた。
- いいことをするといいと言い、間違ったことをすると、こうすればいいと言ってくれる。常に私の事を思って接してくれた。
- 退所後の生活を考えてくれた。

<良くなかった点>

- 職員が少ない。
- 入所者が多すぎて対応しきれないことがあるように思えた。
- 担当職員が出張などで忙しく、あまり話ができない。
- ため息をつく職員がいる。
- 人のプライベートなことを、みんなの前で聞いている職員がいた。
- 意見箱に出した意見について、回答が明確ではなかった。
- 個室を開ける時のマナーに問題がある職員がいると思う。
- 職員のスキルに差異があり、同じプログラムでも、担当職員によって、成果に差が出ていると思う。

(4) 自立センターを退所する時に不安はなかったですか？



<「不安があった」と回答した人の意見>

- リハビリが満足に受けられるのか。
- 復職できるのか。
- 仕事がどれだけできるのか。職場復帰した際、以前に自分がしていたことがどのくらいできるのか。
- 守られた空間から外に出る事にすごく不安を感じる。
- 新しい場所でうまくやっていけるかどうか、心配になった。
- 時間通りにしていたことがなくなるので、退所後だらけるのがすごく心配だった。
- 自立センターの職員は、自分のできること・できないことを適切に理解して接してくれるが、家族はそれほど理解できていないし、その微かな違いを家族に説明できない。
- 自分が家族に迷惑をかけないか心配。

3. これからの生活について

(1) これからやってみたいことは何ですか？

- 自立した生活をしたい。 ○仕事に就きたい。 ○復職したい。
- 大学を卒業したい。 ○杖なしで歩きたい。 ○歩いて旅行がしたい。
- 散歩・ジョギング ○走ることやスポーツ ○パソコン（ワード・エクセル）
- 陶芸を教室等で継続してやってみたい。 ○字幕で映画を見たい。
- 買い物・料理など家事全般 ○家族サービス ○自動車の運転
- 兄弟の経済的・精神的支援への恩返し ○昔の自分に戻りたい。

(2) こんな支援があればいいのに、と思うことはありますか？

- 通所リハビリ ○困ったときに相談できる人・場所
- 本人が出かけなくても相談できるサービス
- 移動に関して手助けしてもらえるサービス
- ガイドヘルパーを常時利用したい。
- 交通機関のバリアフリーが進んでほしい。
- 介護保険や障がい福祉などにとらわれず、サービスが利用できたらいい。
- どんなサービスがあるかわからない。

Ⅲ. 調査結果のまとめ

当センターでは、開所した平成 19 年 4 月より、退所された方々を対象に利用満足度を把握するアンケート調査を実施してきました。今回は、平成 28 年 5 月から平成 30 年 3 月末までに退所された方々の回答を集計しました。

当センターの利用を経て、生活や暮らしが「変わった」と回答した方は、前回より 23 ポイント低下しました。また、当センターの利用について「充分満足」「おおむね満足」と回答した方の割合はほぼ前回同様でしたが、「充分満足」が 8 ポイント低下し、「おおむね満足」が 7 ポイント上昇しています。提供しているプログラムについても、「良いプログラムがあった」と回答した方が 6 ポイント低下しており、全体的に前回よりも厳しい回答・ご意見をいただいた形となりました。

今回いただいた貴重なご意見を職員間で共有し、支援の質と利用満足度の向上に努めていきます。また、アンケートの質問紙についても、より回答しやすい形を目指し、随時見直しをしていきたいと思えます。

最後に、アンケートにご協力をいただいた利用者・ご家族の皆様方に厚くお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

参考：プログラム内容

| プログラム名 | 内容や目的 |
|--------------------|---|
| PT（理学療法） | 身体機能の維持・向上、特に移動能力の向上をはかる訓練 ※対象は機能訓練の利用者のみ |
| OT（作業療法） | 日常生活動作能力、認知能力の向上をはかる訓練 ※通所利用者は、初期評価のみ実施 |
| ST（言語療法） | 失語症の利用者を対象に、コミュニケーション能力の向上をはかる訓練 |
| 歩行・車いす走行 | 歩行能力・車いす駆動能力・基礎体力の向上をはかる訓練 |
| 脳リハ | 机上課題を行う認知訓練 |
| 体操・脳トレ | 運動（移動）を伴う認知訓練 |
| 認知訓練 | 聞き取り・書き写し・発表等の課題を通して、集中力・記憶力やコミュニケーション能力の向上をはかる訓練 |
| 漢字・計算 | 漢字や計算のドリルに取り組み、脳の活性化をはかる |
| パソコン | タイピングや文章作成に取り組む |
| スポーツ | スポーツを通して、心身の健康の維持・向上をはかる |
| グループトレーニング | 更衣等、基礎的な日常生活動作の訓練を集団で行う |
| S トレ（ソーシャル・トレーニング） | 共同作業やゲームを通して、活動性の向上やリフレッシュをはかる ※平成 29 年 11 月～30 年 2 月に実施 |
| メモリーノート | 予定管理能力の向上、記憶障がいや遂行機能障がいの代償手段の獲得をはかる |
| 言葉・交流 | 失語症の利用者同士の交流をはかる |
| 注意力と運動 | 注意障がいや半側空間無視の利用者に対し、安全に移動する能力の向上をはかる |
| グループワーク | 少人数のグループにて、高次脳機能障がいの理解・受容の促進や地域生活にむけた課題の整理をはかる |
| 趣味活動 | 書道・筆ペン習字・写経・絵画・絵手紙・塗り絵等を行い、余暇活動の充実や書字能力・集中力の向上をはかる |
| 陶芸 | 余暇活動の充実をはかるとともに、手指のリハビリを行う |
| カラオケ | 余暇活動の充実をはかる |
| PT/OT 外出 | 外出時に見守りが必要な利用者に対し、理学療法士や作業療法士が車いす操作訓練や近辺外出訓練を行い、単独外出範囲拡大をはかる |
| 交通外出 | 公共交通機関（電車・バス）を利用した外出の練習・評価 ※単独での外出を想定し、障がい者手帳の提示や駅員への介助依頼も利用者が行う |
| 生活実習 | キッチンや浴室のある個室にて、単身やグループホームでの生活を想定した生活（買い物・調理・清掃・入浴等）とその評価を行う |
| 調理評価 | 調理動作の練習・評価を作業療法士が行う |
| 職能評価 | 軽作業と事務作業を通し、就労に必要な能力の評価を行う |
| 作業体験実習 | 厨房業者の協力を得て、食堂にて配膳・後片付けの実習と評価を行う |
| ピアサポート | 背髄損傷協会による相談支援 |
| 講座 | 健康管理や社会資源の利用について、啓発や情報提供を行う |
| 自己学習 | 自由時間に各自で設定した課題（計算ドリル、パソコン等）に取り組む ※取り組む内容や量については、必要に応じて職員が支援 |

※プログラムの名称や内容は平成 30 年 6 月時点のものであり、今後変更となる可能性があります。